平成18年11月20日

市川を調べる

第 4 号

発行　八戸市立市川公民館（木村　隆一）
市川を調べる会（会長　星　一郎）

市川昔がたり④

明治初期の学校事情

多賀台　奈良孝次郎

【ふたつの学校】

明治政府は、日本の近代化を進めるために学校教育を重視し、学制を出した。そして、全国の各地域に小学校をつくり、やがて義務教育とした。市川村には二つの小学校、つまり**轟木小學**と**下市川小學**ができた。明治10年の記録である「**三戸郡誌**」にはつぎのように出ている。**「公立小学二所、一ハ本村の東端、生徒男四十八人、女四人。一ハ新田ニ在リ、生徒男六十三人、女二人」**

【女生徒は少なかった】

これを見ると、両方とも男子にくらべて女子はずい分少ない。このことは市川に限らずどの地区においてもほとんど同じだった。女子に対しての偏見があり、「女子に学問は要らない。家事、家業を手伝えばそれでよし」と考えられていた。轟木小學の場合、20年後にやっと男女同数ぐらいになっている。（下表参照）

【生徒の様子】

生徒の服装は男女ともみんな着物、はき物はぞうり（冬はわらぐつ）。記念写真で見ると、男子の多くはちょんまげだったようだ（野辺地小学の場合）。弁当持参で、その中にはヒエめしとうめぼし・ヒエめしは、ぼろぼろで、ゆびですくって食べた。

轟木小學には藤澤茂助という名物校長がいた。もとは会津藩士で、読み方や書き方を指導したが、きびしいことで知られていた。

【すぐれた学校あり】

当時の市川地区の学校は、三戸郡内でも良く行われていたようで、文部省への教育事情報告書の中にも特記されている。「部内に記すべき小学二あり」として轟木小學と下市川小學をすぐれた学校としてあげている。このことは教える側がよくやったということと共に、それを受け入れた地元の教育に対する結果だと思われる。　参考 ： ＊「聞き書き多賀の百年」　＊轟木小学校百周年記念誌「とどろき百年」
＊「轟木小学校90周年記念誌」　＊「八戸教育史」　＊「八戸･三戸の100年」

轟木小沿革史より

轟 木 小 學 在 籍 児 童 数 の 変 遷

木村隆一　作成

年 度	男 子	女 子	創立後～年	備　考	年 度	男 子	女 子	創立後～年	備　考
明 9	34	2	0	男子は女子の17倍	明 32	88	73	23	男子は女子の1.2倍
18	90	31	9	〃　〃　2.9倍	33	89	87	24	女 子 ≒ 男 子
31	82	46	22	〃　〃　1.8倍	34	96	102	25	女 子 ＞ 男 子